

各地の

倉敷通信

たより

倉敷通信
神戸支部
満洲支部
大阪支部

遂々倉敷へやつて参りました。本當に「遂々」といふ感じがいたします。昨年末に、先生よりこのお話がありまして、私は両親はもとより親戚知友にも相談し、又自分も再三熟考致しまして決心、いよいよ昨2月26日當倉敷天文臺に來任したのであります。その間の、先生並に諸先輩の一方ならぬお盡力さ、お骨折りな、今こゝに厚く御禮申上げます。まだ着任匆々で、何もわかりません。種々の雜務や整理に追はれて居ります。この雜務整理が終つて、觀測を始め様と思ひます。

私の將來の觀測方針は、勿論小山さんの後を受けて主に變星を觀測するにあります。先生も承知の様に、私が變星を觀測し始めましたのは1929年の頃からでありまして、肉眼とか双眼鏡とかで、最初は比例法、慣れるに従つて後には光階法でやり初めましたが、觀測した星は矢張りミラ星とかアルゴール星とかいふ普通の星に限られてゐました。最近になつて、小さい望遠鏡を使用して本格的な觀測を初めたのですが、それとても長週期の變星が主でありました。いよいよ當天文臺に参りました上は、境遇上にも、且機械設備にも、申し分ありませんので、たゞたゞ御期待に副ふ様心掛けて居ります。猶ほ、この上は會長並に諸先輩諸兄の御指導と、御教訓を仰ぐ次第であります。

當天文臺の今後の經營方針は、少時、今迄通り毎月第一、第三の土曜日に公開致しまして、天文講演並に觀望を致しますが、猶ほ原名譽臺長水野生事とも相謀りまして、一層民衆の天文智識の啓發に力を注ぎたいと思ひます。着任匆々、岡山聾啞學校職員の來觀があり、早速水野先生から一役承りました。

今日は研究室の掃除と圖書の整理をやりました。研究室に這入つて、小山さんが掛けられたであらう椅子の背後の壁のカレンダーが昨年8月のまゝになつてゐるのが又なく衰れをとゞめ、圖書整理中、變星報告が外國の天文臺宛になつて、包裝されたまゝ置いてあつたのは故人を忍ぶやすがともなつて、何か胸をうつ寂しさを感じさせ、人間の命の儚さを味はゝされました。

今日は曇つて、大變寒うございます。陰氣な空の下に、前の大原農研の白梅がゆかしく咲いております。

甚だ取り止めもない事ばかり書述べましたが、落付き次第、詳細お知らせいたします。

2月27日

倉敷にて 岡村滋樹 拜

神戸支部報告

第14回 例会　昭和14年一月6日、於 ビーハイブ食堂、出席者 山本先生 外18名

山本會長より“日食コロナの正體”についての最近の學説及び平時に於けるコロナの撮影についての説明等の御解説を伺ひ、其外、現下世界の注視的となれるスペイン國の天文學界の現状についてのお話ありて、謹聴の一時を楽しみ得たり。(禾山生)

第15回 例会　昭和14年二月10日、於 ビーハイブ食堂、出席者 13名

山本會長風邪の爲御缺席、神田氏の丹精になれる本年度の遊星の移動圖を青寫眞にて撮られしものを各位に御分與され、記入の日出日没、月齡、月出月入潮汐の神戸に於ける本年度の各日の時間を示されしものを細目に亘つて説明され、大いに其努力に感謝し楽しく散會せり。(禾山生)

滿洲支部だより

當支部は京阪神各支部の如く活躍はしてゐませんが、興亞の意義を體し大いに張切つてゐます。日下冬眠中にて支部本部所在地奉天では皆様が觀測に室外に出られる20時頃は零下20度にも下つて、觀測方面は思ひもよりません。然し室内に在つてストーブ・ラヂエーター・ベイチカを囲んで各地に天文グループが朗かな話をして、やがて來るべき春に備へてゐます。

正月、支部幹部 T. SK 氏が内地に歸省せられ、本部及諸支部との連絡に當られ、4月に始まる14年度の計畫も着々進捗し、講演會の申込ももう3、4件あり支部役員一同大いに張切つてゐます。いづれ又快報をお知らせする時が來ることと思ひます。

最後に快報をお知らせします。會員諸君の中、滿支に活躍を希望せられる方は、どうか當支部に御通知願ひます。滿支一帯に日下大活躍中の某大會社（特に名を秘す）に支部に於て、入社斡旋の勞をお取りしたいと思ひます。天文愛好者なれば何方でも結構です。御一報次第詳細御通知致します。

（滿洲支部＝奉天市雪見町雪見寮 212 號 河合方迄）

（14. 2. 7 志龍須生）

大 阪 支 部 た よ り

☒新年茶話會（一月22日） 恒例の新年茶話會は伊達幹事宅にて夕刻より開會、天文座談會や天文福引に和やかな笑聲、素人天文家の餘技として謡曲や都々逸詩吟や朗詠・國民歌謡で散會、出席者17名。

☒支部幹事會（二月11日） 西森幹事長宅にて夕刻より、出席者5名。

☒二月例會（12日） 電氣科學館地附食堂にて夕刻より開會、出席者の天文談話會として尾道より出席の松本氏「ハレ」彗星の回觀、大阪遞信局の小關氏「地磁氣・地電流・磁氣嵐と太陽黑點」、大口氏「紫金山天文臺」、西森氏「恒星の食現象」、神戸の神田氏「本年中の遊星運動」等々座談は盡きず、出席者20名。

☒支部報第50・51號 三月1日附會告と邦譯月面名詞輯、150部發送。

☒星河第3卷第2號 三月1日附發行、内容は益々充實しました。

表紙「間長涯使用の望遠鏡」、口繪密着燒寫眞「Cosik-Peltier 彗星」清水氏撮影、巻頭言「月面圖刊行に際して」、「間長涯の事蹟」羽間平三郎、「觀測の生理學」(4) 江原啓學士、「反射望遠鏡の特質と使用法」伊達、「顯微鏡接眼鏡の應用」野村啓學士、「太陽黑點の肉眼觀測法」正村一忠、「昨年の太陽黑點概況」津留繁雄、「曆」(3) 三宅、「天聲人語」、「太陽面通過の? 星」織田、「三・四月の天象」、「星の光度と地上の照度」、「編輯後記」附錄「Star-legends, among the American-Indians」(2)。

☒三月例會（4日） 久々振りに心齋橋筋の「をぐらやビル」にて夕刻より開會、天文談話會として中平老の「カノープス見參譚」、大口氏「南十字星は招く」、プラネタリウムの高城氏「本年四月の遊星の大饗宴會」、伊達氏「火星の大接近を迎へて」、野村學士「協會紀伊支部の強化」、西森氏「カノープスとは」等々ありて第5回天文用語審議會に移り、月面名詞に就き論議あり、出席者21名。

編 輯 室 た よ り

今號は會長の「リングマイクロメータ」の連載講座の第1回を得た。天體觀測の實地教授の懇切さが涵み出て愉しい。木邊・小山共著の「變光星觀測論」も是非全會員の御一讀を奨めたい好著である。四月下旬の曉の遊星達の團聚が見もの、「天界」への各位よりの玉稿は編輯部に山積して頼もしい限り、次號よりは専ら津久井理事が當られる事となつた。第19卷の總目次・索引は目下別に印刷中で希望者だけに頒布、本部へ往復はがきにて御中込み下さい。(P.O.生)